WASON HQ
1888

The Woman's Magazine.

女學雜誌

一冊五錢

當府内無郵税

版權所有

各土曜日出版

明治廿一年（第百參拾五號）十一月十日發

社説
舞踏の復活(第二)
論説
日本婦人の洋服(渡邊鼎)○女學雜誌記者に質問(朝陽外史)○我姉妹に送る(田村武治)
批評
晃山記游○國文教科書○貴婦人に寶冠章を授與するの必要ありや○神功皇后○三の婦人雜誌の評畧○懺悔文(美妙齋主人)
叢話
日本の淑女を西洋人に知せたし○岸頭に立つて○哭して而して笑ふべし○女子看護法の心得(津田梅)○一唱百歎○婦人衛生一斑(櫻井郁次郎)○女學古文
小説
○哲女の卷
佳傳
ウイルラルド女史
寄書
新報
外報
小供談

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治廿一年（第百參拾五號）十一月十日發

社説
舞踏の復活（第二）

論説
日本婦人の洋服（渡邊鼎）○女學雜誌記者に質問（朝陽外史）○我姉妹に送る（田村武治）

批評
晃山記游○國文教科書○貴婦人に寶冠章を授與するの必要ありや○神功皇后○三の婦人雜誌の評○懺悔文（美妙齋主人）

叢話
日本の淑女を西洋人に知せたし○岸頭に立つて○哭して而して笑ふべし○女子看護法の心得（津田梅）○一唱百歎○婦人衛生一斑（櫻井郁次郎）○女學古文

小説
○哲女の卷

佳傳
ウイルラルド女史

寄書

新報

外報

小供談

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 135. NOVEMBER 10TH, 1888.

EDITORIAL:— Revival of Dancing(II).

LEADING ARTICLES:— Japanese Ladies in Foreign Costume, by Dr. K. Watanabe. A Question asked of the Editor of the Woman's Magazin, by Chioyo Gaishi. To My Sisters, by Mr. T. Tamura.

CRITICAL NOTES:— "A Trip to Nikko" "Ought Coronets to be Given to Noble Ladies"? "The Empress Jingo." "The three Woman's Magazines criticized." "A Letter of Repentance."

MISCELLANIES:—"Eminent Woman in Japan Unknown to Westerners." "At the Promontory." "First Greive and then Laugh." "Hints about Nursing (Miss M. Tsuda)." "Hygiene for Woman." "Woman's Classics."

NOVELS:— "Tetsujo no Maki." (VIII).

BIOGRAPHIES:— Frances E. Willard.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

通信女學 第拾四卷 發兌

本月廿六日出版せり

定價一冊金拾錢 七十頁

蓋し最良の教科書

内婦人會の學習に適せり

●珊瑚の珠（第八十五回）

政子　日柳柳東

覇業三朝春夢中。菱花買取術何工。果然婵婦猛於虎。驅使英雄鬼武公。

常盤

擁護孤雛暫忍羞。鴛衾幾夜進温柔。佳人自有蛾眉斧。暗爲夫家謀復讎。

巴姫

蘇陣蛾眉力抜山。紅粧緑髮跨金鞍。美人也是萬人敵。莫作虞姫一様看。

如安　長岡靜香

忍看國勢向危傾。纖手慨然驅老鯨。偉畧堂々護宗社。一雙眉父是長城。

十六夜看月戲作　巖谷迂堂

姮娥含笑出雲帷。一鏡分輝落酒卮。休道團圓佳節過。破瓜最是足嬌姿。

見菊　齋藤拙堂

盆大秋芳亦自嘉。金葩玉蕋別成家。當時陶令看應怪。隱逸花成富貴花。

女學雜誌 第百三十五號 明治二十一年十一月十日發兌

社說

○舞踏復活（下）

昔し、ロードマコウレーの年少にしてミルトンの傳を作るや、中にピウリタン（清教徒）を激賞して措かざりし、然れども後年幾多の世故を經て其の英國史を作るときには、彼亦た幾分か激烈なる前說を改めたり、思ふに武骨なる吾人が當今の交際社會を酷評するに當りては、或は恐る、後のマコウレーをして全同滿足せしむる能はざるの議論あらんとを。然れども、一國の風俗は、時に華美に流るゝの弊あらんよりは寧ろ嚴格に失するの弊あるを可とす、況んや其の遊藝に付ては、又況んや其遊藝を論ずるに付ては、彼のぐづ〳〵としたる曖昧緩容の弊に陷いらんよりも、寧ろ過酷過激の弊に陷いりたる方遙かに可なるべし。平安城裏の花の如き人はよく歌ひ舞ひたり、然れども事を大に爲すの人は木曾の山中伊豆の島端に起らざる可からず、万國の都府には玉の如き好男好女なきにあらず、然れどもよく天國の足臺と爲りて社界の道德を維持するものは茅屋に寒衣したる熱情の信徒なりき。故に吾人は、日本國の西洋諸州と共に大に文明に進むとを喜こぶと云へども、此の　皇帝陛下の御車を置ける主府東京をして、十九世紀の交際的パリ、ニウヨークたらしめんよりも、寧ろ十七世紀の清教徒的ボストンたらしめんとを熱望して止まず。

舞踏するものは風に隨つて蹁躚たるのみ、固より何等の定說ありて然るにあらざるを多しとす。然れども、間ま其中に存する一二の辨說を聞けば、舞踏は交際上に尤も便利ありと云ふに在り、舞踏は衞生上に尤も利益ありと云ふに在り、舞踏は一國經世の上に止を得ざるの都合あるに由ると云に在り、而して此の辨說悉とく採るに足らず。抑も男女ともに踊ると云ふ事、悟して之を觀ずれば、果た何の不都合あらんや、然れども、吾人は、其の踊るは啻に踊るにあらず、踊るものに踊る以外に一個の意思あり、此の意思一揚一躍の間に發して遂に云ふ可らざるの感覺を創造するに至るを惡むもの也。故に、今の舞踏を稱して是れ無心無罪の踊り也、恰かも童男童女が相遊ぶに同じと云ふものありとも、吾人は決して之を承知せざる可し。左れば、今の舞踏の如此きものにして、而して其揚躍の間に發する極めて惡むべきの感覺あるとに付ては、西洋舞踏國の西洋人と云へども倘ほ之を

確證する也。之れを以つて、吾人が舞踏の道德を論ずるや、敢て宗教家として言ふに非らず、敢て淸敎徒の友人として言ふに非ず、只だ高尙ある當然なる一個の人間として之れを論ずるものなり、人間は固より休まねば成らず、又遊びもせねば成らぬ、然れども此の休むと此の遊ぶことは、即ハち此の肉躰精神を保護して立派ならしめんが爲め也、然るに若し之れによりていよ〳〵肉躰を破り、之れによりていよ〳〵精神を汚がさば、吾人は當り前の人間として此の休遊の尤とも愚なるを知る也。蓋し英國に於ては、宮庭にも常例の大舞踏會あり、小學校に於ても多く舞踏を敎ゆる所ろあり、米國佛國に於ては、更らに甚だしく舞踏の一般に行るゝを見るなり、然れども、如此く一般に、如此く年久しく流行して、定めし踊る者も何にとも思ハず踊るに至りしならんと思る英佛米に於てすら、凡そ高尙純潔の德を守るの士君子淑女は、今尙ほ決して好んで此を以て遊ぶとをせず、或は演說し、或は筆論して、滔々たる此の通弊害を改めんとするものある也、舞踏道德の宜しからざると些か推知するに足るべし。然るを況んや、古來相ひ直接に物を授受せざりし程の男女、相ひ面と向つて談話せざりし程の男女が、乍ちにして此の恐るべき最後の遊藝に耽らんとするをや、又況んや、多少實際に此を試みて、既に其の惡臭の天下に流布し、其惡弊惡風の全天下に蔓延したる證跡あるの後に於てをや。

假りに、舞踏には何の弊害なしとせん、又假りに舞踏は交際上に便利相應なる遊事とせん、然れども、未經驗なる日本人民が此の遊びに達する迄でには、少なくとも、尙ほ多くの段落を經ねば成らぬとは極めて明白あり。蓋し吾人は、男女交際の利を主張するに於て敢て人後に立つものにあらず、否な實に男女交際を主張するの忠臣たり勇將たらんとを切望するもの也、夫れ既に男女交際の忠臣たり勇將たらんとするが故に、則はち尤深く其の交際より生ずるの害に注意し、又尤深く其の交際の法方に用心するもの也。密かに思ふに、從來斯程迄に隔絕したる日本の男女をして、之より追々に相ひ接近して、而して其の弊害の遂に起ると莫らしめんを欲せば、其の交際法なるものには、少くとも左の諸要件を具へざる可らず、

一。一方には不都合ある限り從來の交際法を改め乍ら、一方には、決して急激に男女混淆接近の弊を起さしめざる事。

二。此の改正したる新規の交際法と云へども、亦可成く嚴密なる規則に由つて取締らるゝものあるべく、此の新規の

規則にして更らに不都合たるに至らん限り、又更らに一段の進歩を爲すの心得あるべき事。

三。故に、當今男女の混淆するには、多少不同席の舊法を遺して、相語るには謹んで數尺を隔つべき事。

四。第三則により、凡肉躰を直接に附着するの法式は、不都合あき限り一切禁止すべし、即ち、抱合、接吻等の宜しからぬは勿論、握手と云へども決して宜しきにあらざる事。

五。故に、可成く白晝に於て會合すべき事。

六。故に、可成く諸人共同の上の遊びとすべし、個々別々の上の關係といたすまじき事。

吾人の信ずる所ろによれば、當今の男女交際法には、少くとも右六要件の道理を存せざる可らず、而して彼の當世の舞踏は、一切此の六要理を破るもの也、其破るや敢て止を得ざるに由て破るにはあらず、徒らに順序を履超へ、害毒を掛念せず、只だ洋行歸りの書生が彼地にての遊びを想ひ出し、生意氣の女生が別もなく轉變然として面白がり、舊弊流は之れが當世交際の止を得ざるものと斷念し、其他お髯を拂ふもの、輕薄なるもの、尤も卑しむべき志想あるものゝ等が稱する所ろの即ち所云る難止の事情あるものに由つて起りたりと信ずる也。故に吾人は、交際上いつ迄も舞踏を惡しゝと云ふにあらず、十九世紀の日本には未だ早しと云ふのみ、吾人は、抽象的に元來舞踏を惡しゝと云ふに非ず、當今の如き不純潔なる男女の遊びとして、當今の如き踊りを爲すは、即ち未だ可ならずと云ふのみ。舞踏豈に交際上に利益あるものならんや。」

或は云く、舞踏は運動の爲めに宜ろしと。成程運動なるものは結搆なるもの也、特に御馳走を召し上つて、雛人形の如くぢつとさるゝ所ろの貴婦人より、手車馬車に乘つて驅廻り敢て此の二本の天飛脚を使用遊ばされぬ所の紳士方等には、更に尤も結搆あるもの也。然れども、抑も此の舞踏は、果して眞正の運動に適するや否や、是れぞ實に研究すべき大問題なれ、蓋し窮屈なる流行洋服に全躰を緊めつゝ、窮屈なる高沓細靴に兩足を緊めつゝ、耳を熱し、頰を赤くし、全身悉く燒くるが如くに激昂し乍ら、瓦斯燈は火の如く燃え、窓は貞節に閉られ、而して夜の九時十時に初まつて朝たの一時二時に至るまで、有頂天に騷ぎ廻り、或は食ひ、食つて復た踊り、踊つて復た食ひ、恍惚夢の如くにして歸る、歸路寒氣に觸れて風を引くものあり、歸宅后更に食て一睡し、宿醉未だ覺めず朦として天日を見ざる耶、是果して、眞正の運動、眞正の

衛生なりや、思ふに皷舞と云ども倘首を振て然らずと申すべし。左れば、吾人は貴婦人紳士が運動に注意せらるゝを喜び、平素何卒其玉躰に恙ましまさゞるようにと祈ると勿論なりと云へども、夫には此の舞踏なるもの、決して宜しからぬとを殘念に存ずる者也、寧しろ紳士方はちと相撲でも取り、貴婦人は召使の手傳ひでも爲るゝ方、遙かに優りたりと信ず。」或は云く、舞踏は一國經世の上に止を得ざるの必要ありと。之れ吾人平民の毫も悟ると得ざる所ろのもの也、よし假令ひ之を悟り得たりとするも、然らば是れ舞踏はお上の御都合丈にて爲さるべきもの也、夫より以下、何たる學校と云へども、何たる集會と云へども、決して此の最後の道理によりて均しく亦た舞踏するの理由を存するを認めざる也。然りと雖ども、吾人竊かに短才を忘れて、敢て一國經世の大事を思ふに、大凡そ奢肆不經濟の風俗を養成するは上の德にあらず、……國民の氣風をして輕率浮薄ならしむるは上の德にあらず、…民をして誤解せしめ怨望恨怨せしむるは上の德にあらず、而て如此き民心を負ふて外國に强硬的對等的の掛引を爲さんとするは上の德にあらざる也。嗚呼鹿鳴館一夜の舞踏は、或は上官平生の欝を散ずるに足ん、吾人は忠實なる一平民として、上官の爲に特に之を希ひ、以て諸君が國家に盡力せらるゝの勞を慰めんとを願ふ、然れども之が爲めに一國に莫大の惡感化を生ずるあらば、敢て忍んで諸君に之を猶豫あらんとを希望せざるを得ず、抑も諸君の如く平素天下の大事にのみ掛念あらせらるゝの方々は、舞踏は果して何樣の影響を國中に生ずるやを悉くは御承知あるまじ、然れども吾人の如く社會の最下層に在つて、遙かに上天を望むものには、其の雨の何如にして降り來りつゝあるかを明白に認たゝめ得るものに候ぞ。」前年舞踏の流行し初めたる頃ほひより、四民漸く華奢に流れ、無用なる洋服熱に浮き立ち、輕薄なる交際會に騷ぎ廻り、而も國民の元氣更らに衰弱して、嘲笑冷笑的の世の中と爲りたり、吾人は舞踏と云へる一元因が必しも此の大決果を造りたりとは云はず、然れども此の舞踏が其の諸大元因中の一なりしには相違なく、又此の舞踏が諸大元因を代表する尤も明白のものなりしには相違なかりし也。

而して舞踏は其の惡風評に追はれつゝ、其濕衣を荷ひつゝ、忸怩として最と悲氣に舞台の後に入らんとする頃ひより、壯士現はれ、客氣勃出し、文章慷慨に變じ、國風沈痛沈實に傾きたり、吾人は必らずしも舞踏の消滅したるが即はち善感化を代

らしむるの地と爲れりとは云はず、然れども其の消滅したるは、即ち惡風の風穴を防ぎたるに相違なく、又此の消滅が惡魔降伏善化流行の、諸善兆を代表する尤も明白のものなりしには相違なかりし也、果して然らば、今まや又舞踏の復活せんとするを見て、吾人が則ち如此く早く大喝叱止して之を筆誅せんとするものは固より當然の事なり。

承れるに、今の總理大臣黒田伯は、極めて華美浮薄の流行を惡ませられ、又今の外務大臣大隈伯は、外交に强硬の主義を執り、平素尤も剛直忍敢の處置を喜ばると云へり、然らば只だ一宵の豪遊の爲めに、又は一時彌縫的の外交の爲めに、彼の舞踏が行はるべしとも思はれず、之れ今日に於て先づ尤も賀すべきもの也。而して特に其の喜ぶべきは、今回の舞踏の如き、其の平民に誤解せらるゝとの尤も少きにあるなり、蓋し前年の舞踏と云へども、たゞ民間に於て揣摩し、臆測し、誤解し、怨望して、大層に言囃したる部分も或ひは之れあるべし、之れ一に官民混遊の趣向あらざりしが故あり、然かるに今回の舞踏會には、在野の平民にして共に鹿鳴館に招かれたるもの甚だ多し、之れ實に官の爲に誤解の度を減ずるに於て大効あらん、吾人亦特に之を賀す、然れども、北方ゴッスの人羅馬に入ては、則ち軟弱なる羅馬人と爲りたり、敢死參河の武士江戸に入ては、則ち又軟弱なる都士とはなりぬ、何如に民間の諸英雄、よし假令ひ直諫は一本鎗よりも難しと云ふ共、大丈夫何ぞ情理の爲めに眼、口、筆を犠牲にすべきぞや。

論説

○日本婦人の洋服（其三）　在米ドクトル　渡邊鼎

左れば予輩は日本婦人に向て飽迄も洋服を採用するとを奨勵するも亦偶然に非ざるなり左りながら爰に一の注意を要するは則ち緊迫せるコーセットを用ふるの一事是なり元來コーセットは古代用ひたる所の帶より變形したるものにして十四世紀以前迄は歐洲の婦人服も日本服同樣上下一連續のものにして之に帶を締ひたるものなりしが十四世紀の始め（一三二〇年頃）よりして此長き外衣の兩袖及び兩側を切斷したる所謂(Sleeveless and Sideless Kirdle or Coat-hard)と稱する上衣を用ひたるよりして從前の帶は遂にコーセット狀のものに變ぜしものなりしが後彼の最も不健康なる窮々しき服裝を用ひたりと稱する英國處女王（女王エリサベスは曾て結婚せざりしが故に斯く字す）の時代に到り愈々其の緊迫せるコーセ

ツト及びファテンゲールを用ふるの風流行を始めたるものにして今日に到たるも依然之れを襲用するもの〻多きは則はち是れ洋服の一缺點なり予日々歐米人を治療する故に種々日本人と異なる所を發見すると鮮なからずと雖も就中歐米婦人の胸腹を診察するに當て肋骨の形狀の豫想外に異なるは毎度驚く程にして隨分緊迫の甚しき其の害少々に非ざるを信ずるなり左ればわが邦婦人よ洋服を採用するは可なりと雖ども必ず此の甚だしき緊迫せるコーセットを用ふるとは必ず廢せざる可からず(但し緩るきコーセットは敢て害なし)然り而して之を防ぐには如何すれば可なるや予輩の考ふる所には目下日本にて高貴の婦人及び敎育ある婦人等卒先して其の風を造出し以て其の例を示さば(彼の赤十字社則ち博愛社々員の婦人先づ之を行ふ可し)恐らく其弊害を免れ得べし苟も敎育ある愛國心ある婦人方は國家に盡すの義務として之を爲さゞるを得ざるを信ずるなり(之れ亦博愛の最大なるものあり何となれば恐しきカストームは人を殺すと戰爭より甚だしければなり)實に上の好む所下之に倣ふは古今東西の通則あるが故に斯く高貴の婦人敎育ある婦人が其の例を示すあらば下之に倣ふは蓋し鏡面の反射よりも尙ほ著しかる可し諸君見よ歐洲に於ても十六世紀の頃非常に尖端の廣き靴(尖端の幅六寸許り)の流行せしも佛王第一世が腫大せる趾を患ふが爲め斯る廣端の靴を用ひたるに始まれり又ラッフ(襞ある婦人の頸卷き布)の流行も素處女王が其の頸部にある醜き疣を隱さんが爲めに用ひたるに原因せり又ヘンリー八世の時に顏面に班點を附くるの風流行せしも亦同八世の顏面の醜貌を隱さん爲め用ひたるに起れり又頭髮に粉末を塗り着色するとの流行せしも又佛國女王の灰色髮を染めたるより始まれりバイロニックからの流行は有名なる英國の詩家バイロン氏の用ひたるに始まれり嗚呼歐洲に於ても既に斯の如し日本に於ても豈其の例を見ずして可ならんや日本上流社會の婦人豈夫れ勉めざる可んや況んや甚しき緊迫せるコーセットの如きは目下歐米に於ても敎育ある婦人社會には殆んど行なはれざるをや見よ既に去る七月米國全洲の官立學校の敎員會議を開きたる際集會せる敎員は大約六七千人にして內五千人は婦人の敎員なりしが斯る多數の女敎員中緊迫せるコーセット又は非常流行風(ファッショナーブルスタイル)をあせるものの一人もなかりしは予輩の親しく目擊せし所にして流石に文明國婦人たるに感服仕りたり故に予は大聲疾呼して云ふを得べしコーセットの甚しき緊迫及び

甚しき異常の流行は敎育ある婦人社會に決して流行し能はざる者にして只無敎育の婦人又は藝娼妓等の下等社會にのみ流行するものなり左りなから前にも述べし如く歐米の文明國と雖ども悉く皆敎育あるもの(目明き)のみに非ずして又た無敎育のものも隨分澤山なるが故に斯る有害なるコーセットも亦依然流行するを見るなり故に予は諸君に向て洋服を奬勵すると同時に又コーセットを廢するを希望せざるを得ず。

嗚呼 Custom is the law of fools. 風俗習慣は愚人の法律也上流社會の敎育ある婦人よ愚人の爲め良きカストムの法律を造出せよ若し夫れ諸君が予が諫言を入れずして有害なるコーセットを用ふるあらば予は諸君をも亦愚人籍に編入するを憚らざるのみならず歐米人の敎育ある婦人社會に笑はるゝと明かなり若し夫れ之に反して斷然緊迫せるコーセットを廢して洋服(歐米の敎育ある社會の洋服)を採用せば啻に歐米人に笑はれざるのみならず諸君は却て歐米人を笑ふに至らん諸君豈愉快ならずや諸君夫れ勉めよや〻〻〻〻(完)

○女學雜誌記者に質問　在獨乙　朝陽外史

私は、海外に遊學致し居ります者にて、トント、近來の我日本國の事情には、不案内に御座りますが、實は、近頃、夏期休暇を幸に、米國より歐洲の大陸に渡りました、當時、同邦の友人と、當國に避暑致し居まするが、夏の日の長く、徒然なるまゝに、友人の許に節々御寄送に相成る、貴社雜誌を借用致し、一讀仕りて、始めて、近來我國の婦人社會の情況、見るが如くに承知致したる次第に御座りますが、之は必竟、記者の余德と存じても、宜しきとと存じます。

却說、夫に付きましては、思はず、一たびは驚き一たびは歎じたることとて、御座りまするが、何でも、近來、我國には頻に、歐米文明の風と申す事が、盛に行はれて、特に、婦人論抔は、一層やかましく、既に又、男女の交際抔も、行はれて參りたる樣子にて、貴說に據れば、今の都城の年少男女は、二人同伴して、外出逍遙するを、西洋風なりと思ひ、年頃の女子一人にて、集會に出て、年頃の未婚男子之を接待して、之を西洋風なりと思へり、無暗に握手し、無暗に接吻し、云々と御座りますが、果して、之が眞の事で御座りますれば、我々は、驚駭の餘り、西洋の方が反つて野蠻國にて、日本コソ、古今未曾有の文明國なりと外、申し樣なく、定めて我々が、日本に歸國の上は、第一番に、男女交際法やら、急に、握手接吻の方法抔も、修業致さねバ、トテモ、日本文明なる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社會に仲間入は、出來まじきかと、取越し苦勞致す事で、御座りますが、然し、記者の御論にては、斯の如きは、文明の神髓を得たるものにあらず、心得違なり、宜しく、矯正す可しと、遠慮なく、御直諫あるを知りて、實は、我々は、少々安心致したる次第で御座ります。」ドウモハヤ私共の如き野蠻人の耳には、近時、日本文明國に行はるゝ、婦人論は、能く聞き取れませんが、如何なる故にて御座りましよう、實は、私も三年前、始めて米國に、ピヨツト顔を出しました節には一番驚きましたのは、米國の婦人の有樣にて、實に日本とは百年の差がありと思ひましたが、二年、三年と、段々と、年が經つに順ひまして、能く其國の事情に、明かに爲つて來ますと、前年に考へた事とは、殆んど反對の意見が、出て來ました事で、今となつては、別に米國の婦人とても、思つた程驚くにも足らずと、存じた次第で御座ります、特に、御存知の通り、米國と申す所は、廣き土地にて、南北と申せば、人情も風俗も、自から異り居りますとで、成る程、ボストン、ニユーヨルク、フヒラデルフヒヤ地方の婦人中には、隨分、女權家もあり、大學者もあり、著述家もあり、從つて、婦人の勢力も、大なる樣には御座りますが、南方のリツチモンド以南の婦人の有樣と申せば、北方とは、殆んど他國の如き、相違が御座りまして、反て柔順なるを以て、婦人の美德と致す風が御座ります、又遠く去て、歐洲に來て、見ます時には、又一層著しく米國とは、違つて居ります、現に、獨逸國の如きに至ては、別段、非常なる差が、日本の婦人とは御座りませぬ樣にて、佛國人は、華麗に、婦人を取扱ひますれ共、別に婦人の地位が、高ひとは申されぬ樣で御座ります、又英國にては、餘程、米國の風に近き樣子なれ共、夫とて、米國人が、婦人を取扱ふ如く、英人は自國の婦人を待遇せぬと、申す評を聞きましたが、現に、當國の婦人抔は、米國の婦人は全く飛び上りものなり、傍腹痛しと申しますものに、往々出遇ますが、何に致せ、日本にて、近來頻に、歐米婦人は斯樣々々、西洋の風習は斯くの如しと、一概に同じ樣に、申されますが、夫はチト間違かと存じます、多分、日本にて、西洋或は歐米と申さるゝは、單に、米國の婦人の事を取て、申さるゝ樣に、聞き取れますが、果して、左樣なるもので御座りますか、承りたく存じます。(未完)

○我姉妹に送る　(其二)

田村武治

然は則回て智德を備へたる婦人を見よ國の東西を問はず色の皙黑を論せず其優柔謙退矜らず誇らず言行擧止能く其節に合ひ一見人をして其高風を仰がしむるもの

は異にして何ぞや如此き婦人ハ素より政治社會に立て滔々天下の大勢を論ずるの識あるべく又文理に登りて典麗なる詞藻を鏤むるの筆あるべく之を碌々たる鬚眉男子に比すれ其才學は以て彼の矜功驕驁の跡を滅すべきも其人決して之を爲さゞる者は未嘗て世を毀れ己を知るの厚きに由らずんばあらず或ハ云ハん男女同權ならんにハ素より如此き遠慮深きとハ無用ならんと之れ決して然らず兩性各長短する所ありて其擔任すべき仕事も自ら內外の別ある如く實に相讓らざるへがらさるものあればなり蓋し上帝創造の大元より推論すれば男女同じく上帝の子にして上帝に對するの義務と責任に至りては少しくも相異なるものあるを見ず左れハ權利ハ同等なりと雖とも奈せん之を社會上の問題に照して歴史より考るに男女の間其事業上に著き差異あるハ亦た疑ふべからざるの事實たり我朝の神功后の即天武后及スペインのイザベラの如く古今時に豪傑なきに非ずと雖ども是れ所謂希世の尤物にして之を推して未だ今日一般女子の價値を評定すべからざるのみあらず吾輩ハ云ハん苟も事業に差あらば才能亦差なき能ハず才能にして差あらんか賢愚の別自ら生せざるを得ず既に賢愚の別あらば其負擔すべき義務と權利に至りても素より亦其大小を異にせざるを得ず英國の立憲政躰を創むるや曠世の偉業と云へし然ども未だ嘗て婦人の力に由るものあるを聞かず米國の獨立を發布して共和政治を制定せしやワシントン、フランクリン等に先て婦人の之を主唱せしものあるを聞かず又日耳曼の興るやウイリアム帝及ビスマアクあるのみにして佛民の塗炭を救ふも亦婦人の力に由るべきを期すへからず更に一歩を進めんにはスペイン、ポルチユガルの衰ふるや久し億兆の中何そ一婦人のイサベラの美蹟を挽回するものなき況や歐米今日の文明に達して政治敎育技術等斯る高度に達せしにも拘へらず何ぞ萬口一音婦人をして參政の權を有し國會議員或ハ代議士の重任に當らしめざるや蓋し以上擧ぐる所の事實ハ皆婦人には職掌違ひのとにして社會ハ未だ婦人を以て斯る責に任せしむるを以て適當なるとさ認めざるに由るなるべし是れ女子の自ら男子と歴史上に於て其權利を異にするの證據と申すべし。

然と雖ども天の物に賦するや各々其性を異にすると同時に亦各々其長ずる所を授けずんばあらず斯て自然に長短相補ひ强弱相扶くるの用を成せしめ以て社會の平均と人生の幸福を維持し宇宙の萬象を擧て一平和の局內に網羅包括せしめんとす動物獨り生きず植物之を扶け植物ハ其須用を大氣中に求め虎豹ハ以て豺狼を驅るべきも其鼠を捕つハ未だ家猫の敏捷なるに若かず螻蟻の糧食を貯ふるハ牛馬の主を喪ふて餓死するを笑ふべし左れば異性相會して其長所を集め以て各自の生存を計るは實に宇宙の大法にして未だ嘗て一個獨立して能く其盛なるを致すものあらざるなり由是觀之人類中男女の別ありて各自其長短する所あるハ素より社會を組織するの大法にして其一を缺かば決して事業の完全するを見るべからざるや昭々たり然ハ則男子の强も女子の柔に待つべきものありて女子の柔軟素より男子の剛健に由ざるへからず男、女と分れ獨立して社會の生存を計るハ道理上あるべきのとに非ず苟も兩々相待つの用ありとせば玆に始て權利の制限を生せざるを得ず然も又其義務ゝ相應せる自由をも保存せさるへからず左れハ歐米の婦人にも未た政治上の權利なしと雖とも法律上の權利に至りてハ十分之を受くるとを得て夫は妻を愛し妻は夫に從ふへきの道儼然として犯すへからさるものあり是れ蓋し上帝か人類を創造されしの大意なるへし若し之に反して男女同權の意を誤解し女子の性質才能如何に拘はらず唯一切百事男子と同一なりと云はゞ猶動植物にして各自獨立を計らんとするに異ならずして其社會の秩序を紊亂して人生の幸福を毀損し其衰滅を招くに至るや必せり古希臘の盛なるプレトー哲學派の行るゝに當り人類は智力の中に存亡するものなりとし男女同權の論起るに至て兵陣の間猶且つ婦人を賦役するに至れり然とも風俗頽敗して淫風盛に行はれ遂に希臘の亡滅に補なかりしハ今日吾人の知る所なり然ハ則婦人の德たる溫柔清潔待て犯すへからさるの概ありて之を飾るゝ恭謙揖讓の節と敬神知已の誠を以てし能く自ら其權利義務の在る所を誤らさるに在り彼の米國婦人の如く又輓近我邦の少しく字を識り理を解して益ゝ婦德を失ひ傲慢不遜醜聲外に聞へて猶且口に女權の伸張を囂々するものゝの如きハ殆と愧死せさるへからさるなり。

余は前節に於て男女共に天賦の權利を同ふすと雖とも歴史上の事實に於て今日未た政治上の權利を同ふし難きの理を論し併て女子特有の性に隨て其才能を正用すへきの途を說けり余素より女子に參政の權なしと云に非れとも今日全社會の女子か未た此點に達せさるを以て頗る不適當の責任らしきを免れざるべしと信するのみ若し數世紀を經て社會の事物一層の進歩を加んにハ必ずや輿論の變するものありて女子を擧て全く男子と同等の地位を保たしむるの日あるや期して待つべきなり其れ然り然は則女子なるものは唯に男子の奴隷たるべきものに非ざるのみならず實に男子の短所を補ひ社會の平均を維持するの大責任を有するものなり左れば女權素より擴張せさるべからず一夫數妻の制素より破壞せざるべからず政治敎育に宗敎に所として女子の關係すべからざる所なし然と雖も女子にして其權理を擴張せんと欲せば先づ己れが才能德行の如何を省みざるべからず己れ果して社會に立つの日其與へられたる權理に對して愧るなきの義務を全ふするとを得ば則可なり否すんば己れか權理は却て其身を傷ふの斧にして啻に一身に益なきのみならず斯て毒を社會の全面に流し遂に自から再び社會の爲に之を奪はるゝの辱を累るに至るべし凡ろ社會は公平の眼を具へ決して無用の長物を容れて之に貴重の權理を假さず實あれば之を擧け實なければ之を黜け自然陶汰の傾向を顯はすものなれば女子にして突然社會に立つも苟も其實力あるに非ざれば決して其位地を永久に保續すべからずして依然男子の制する所とならざるもの幾何ぞ左れば女子にして能く內に其權理を保護するの能なくんば安ぞ之を外に擴るの力あるを得んや。

然は則ち何をか女權擴張の要と云ふ曰く女子をして社會に立つの日獨立して自己の生活を全ふし得べきの才能德行を養成せしめ一身世界を横行して天に愧ぢず人に愧ぢす妻となりては其道を盡し母となりては其責を全ふし夫死しては則ち家を理し子を敎ゆるの器量ありて夫の他人の恩惠を仰て一日を苟且するが如きの慘狀

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なきに至らしむると是なり女子の地位にして苟も此に至らば縦令ひ自ら退くも社會は之を推薦して已まず皆其譽を聞くを樂むべし去れば大陽一たび出でゝ百怪倏ち滅する如く期せずして父母の干渉(無用の干渉)を解くべく自由結婚(眞正の自由)の制起るべく隨て一夫數妻の弊を徹去して其社會上に非常なる温和の一大改良を持ち來すべし是れ實に末を舍てゝ本を務むるの策にして凡そ天下の大事を企つるものゝ宜しく着眼せざるべからざる所なり余は切に望む吾邦の女子にして其權理を張らんとせば決して斷る不完全なる十九世紀に流行する歐米婦女が自由の弊風に迷ふとなく毅然として世表に立ち獨り眞理に由て才德を養ひ眞正の女權を發揮して我邦開明の大基礎を築かんとを(ミル)氏曰く今や歐米開明の民にして眞成なる自治の精神あるもの甚稀なりと甘かな言や蓋し眞成なる自治の精神は眞成なる開明の基にして亦眞成なる權理を保つの堡塞なり社會の平和人生の幸福一として此に出ざるはなし我の親愛する姉妹よ試に此問題を舉て自家の心に問へ。抑も我邦女子にして眞成なる自治の精神を養はしめ以て文明の一女子たるに愧ぢざらしむるには唯之に授くるに完全なる教育を以てするあるのみ惜哉今日吾邦の教育は大に智育に偏するの傾なしとせず德育とては僅み古聖賢の死たる言行を摸範とするに過ぎざれば斯る驚くべき邪惡の人心を防んとするとは誠に困難のとにして其道德の起らざるも亦怪むに足るものなし然と雖も智德躰三育のみにては未だ足らざるものあり余は別に之を論せんとす要するに人を教ゆるに德育を忘るものは猶骨髓中より「マロー」を去りし如く絕て剛堅の力なく人の人たる所以を認むべからず如此きは吾輩教育の目的に非らざるなり我親愛せる姉妹よ余にして過言あらば幸に教誨を辱ふせよ。頓首

批評

○日光山記遊

中本綴一冊十四葉非賣品
小石川掃除町永井鐵之丞印刷

此書は跡見花蹊女史が日光山遊觀の小記なり、是れ今年七月北白川能久親王に陪し筆を載せて隨遊したるの記行と云ふ、文は小品にして記事固より精ならずと云へども、筆力強健間ま議論述懷を挾みて文章極めて雄麗なり、恨むらくは全卷を搜索して一絕の詩あるを見ざれども、其東照宮の廟を記するや云く杉檜參天神威肅然、其の古今の變遷を敘するや云く八十坊二十六院連棟飛甍鐘梵相聞而今東照二荒之外僅存三坊十二院、最短最小の文すでに詩の如きを覺ゆ、而も十餘首の國詩中名吟少なからず、黒髮山を見て

幸の海を鏡となしてとこしへに黒髮山はくしけつるらん

の如き其尤も佳なる者歟。而して亦た一二の遺憾なき能はず、僅々たる此の小冊子何にぞ如此く酒を記するの多きや、例せば、

湛厚僧正饗以酒食、入夜歸寓。(第四葉)
乃箕踞巖上、煖酒行餐。(第五葉)
酒肆茶亭、連簷臨水。(第九葉)
衆上松見樓、團欒呼杯、宴畢。(第十一葉)

東洋の文人は兎角酒色を以て風流と心得るものあり、吾黨純潔高尚を尊む所ろの者は鼓を鳴らして之を責めざる可らず、況んや優貞を德とする女流の文章詩歌に於てをや、必らず瓢歡飲記の惡文辭を全廢せざる可らざる也。然れども此等の數句ただ吾人をして尤も痛惜を感ぜしめたるのみ、其の雄壯たる文章、其の鬱勃なる豪氣は、蓋し之を文壇女將軍の著なりとするに餘りあるべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

〇國文教科書　大本二册和裝定價六十錢　發行者東京通旅町中央堂

此書は關根正直氏の編輯せられたるものにして、其例言に云く、

國文は國民一統に貫通し同胞一躰の感覺を與ふる一國特有の顯象にして其はたらきは外國に對して國民の結合力を堅うする一の元素ともなるべければ國家のため極めて大切なるもの也。

と實に然り、而して其國文として撰まれたるハ、菅茶山貝原益軒熊澤了介瀧澤馬琴室鳩巣新井白石本居宣長等、凡そ二十六氏の文都合七十三篇なり。抑も此等の文章は、彼の漢文と和文との混合調和よりして日本に於て新たに出で來たりたる一種の新文躰なれば、之を國文と稱するは甚れだ宜ろし。但し將來の日本の文章は果して何如やうにか變化すべきと云ハゞ、固より又た此の所云る國文の躰のみにも限らざるべし、蓋し今の時節は東西古今の思想日本に於て自然淘汰の運動を爲しつゝあるものなれば、其の思想の何れにか定まるに隨つて文躰の亦た隨つて變ずべきと勿論なりと雖ども、必らずや和文躰國文躰漢文躰洋文躰混成の間より進化し來りたる一新躰にあらずんば、決して將來の日本に於て發達す可らずと思へり、而して男女兩文躰の進化に對して其方向を臆測すれば、男文は洋文躰に感化せられつゝ、國文躰と漢文躰との間だを行くべし。

女文は洋文躰に感化せられつゝ、和文躰と國文躰との間だを行くべし。

故に其の何れの途より考ふるも、此の國文教科書の如きもの、出來して、彼の和文教科書と共に女學社界に行わるゝは吾人の喜ぶべきとと云ふべし。

〇近時の女學論

（一。）貴婦人に寶冠章を授與するの必要ありや

十月三十一日の讀賣新聞は、右の如き表題を掲げて吾人に一驚を喫せしめたり、然るに細かに其文を通讀すれば意義瞭然として殆んど取止めなし、蓋し其外に餘音の存するものならん歟。先づ殷の湯王、保守黨總理ロバートピールの古事を引いて、女謁の弊害を罵りつゝも左の如く言へり、

余輩は固より婦人は參政權を有す可らずとするものに非ず男尊女卑を主張するものに非ず婦人を以て奴隷視し或は之を動産視するものに非ず唯だ其位に在らずして其政事を謀るを悪むのみ。

前半は非常の卓論にして、後半は非常に臆病の說なり、蓋し湯王ロバートピールあらざるの政事家が婦人に誤まらるゝものは、婦人の罪にあらずして其の愚政事家の愚なるによるのみ、事に乘じて自ら政事を謀らんとするは男女ともに望む所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

也、之を防ぐは當路者の胸中にあり、何んぞ寶冠章を授くると授けざるとの如き事件に關係あらんや。抑も勳章授與の事果して今日に切要なりや否やを知らず、然れども既に此の制あらん限りは成べく公平に諸人に分つとは當然の理なり、然らば相應する一人に之を授けて他の一人に之を授けざるの不可あるが如く、之を男性にのみ與へて女性に與へざるは同様の不公平なるものと云ふべし、前の關白太政大臣が必しも要權を握らずと知らば寶冠章授與の事の決して記者が心配に關係なきを悟られたし、况んや此の制の如きは眞に正當なる公平なる處置なるものをや。然るに記者は更に云へらく、

或は有夫の婦は其夫と同等の待遇を享くべしと云ふ原則を以て今ま此の寶冠章を授與せらるゝならんか然れども女は生れ乍らにして玉の輿なる語も亦原則なり此の如くにして若し假に其夫が中原鹿を逐ふ余豪未だ消せざる時に當りて春花の會秋月の宴低唱高歌の間だに恩を承けて其の箕帚を執るを得しものありとせば是等のものにも猶ほ寶冠章を授與すべきか鹿鳴館の演藝感風に參席してさへ猶且つ世間の異議となりしにあらずや况んや之に寶冠章を授與するに於てをや。

之れ驚ろくべき新説なり、今の大宮夫人の面々に如此き素性の御方ありとは夢にも思はざりき、女學子の責任として篤と其の邊を研究し追てお答にも及ぶべきが、然しよし〳〵萬々一ゝ記者の言へる如き不吉ありとしても、既に伯爵夫人子爵夫人と相成り居らるゝ奥方に、何故寶冠章を授けがたきぞ、爵位は授けてもよろし、勳章は宜しからずとの義か、左様ならば、昔しの書生足輕などの立身したるものにも何卒勳章を與へたくなきと也。

(二)　神功皇后

魏志の卑彌呼は神功皇后に非ずと云ふ、那珂道世氏の辨は前號に抄錄したり、之に反對する小中村義象氏の辨、文の第十五號に見へたり。云く。

魏志の卑彌呼は神功皇后にあらずと云ふは鶴峰戊申近藤芳樹等既に其の説あれども信ずるに足らず、氏か神功皇后に比するに女豪傑たるの外似たる所なしと云へるは、紀年を誤なりとする漢志にて書を讀まれし故の僻見ならむ、其の耶馬臺國を皇都のありし大倭國にあらずと云へるが如きへ南至の字に拘泥したる説なるべけれど、韓土より壹岐、對馬南方を經て往來することなれば、地理を熟知せざる時代にありては深く據ろとするに足らざるべし、加之里數方角等外國の事を記せるに南を北とし、百里を千里と記すが如きは往往誤を免れ難きものなり、魏志の所謂耶馬臺國は我が皇都にして、其の女王及ひ卑彌呼と云へるへ神功皇后なるべしと思はるるは(第一)伊都、末盧等の國國を擧て世有王皆統屬女王國と云ひ、(第二)耶馬臺國女王之所都と云ひ、(第三)支惟(紀伊歟)躬臣國(越國歟)蘇奴國(佐渡歟)爲吾國(伊賀歟)巳白支國(磐城歟)奴國(陸奥淳代歟)等を擧げて、此女王境界所盡其南有狗奴國(上毛下毛歟)と云ひ、(第四)國國有市交易有無使大倭監之自女王國以北特置一大率撿察諸國畏憚之と云ひ(第五)其國本亦以男子爲王云云、倭國亂相攻伐歷年乃共立一女子名曰卑彌呼事鬼道能惑衆云云などあるを以て明徵とすべし、又三國史記に脫解尼師今十一年倭人侵木出島王遣角干羽烏禦之不克羽烏死之祗摩尼師今立十年四月倭人侵木邊十一年(後漢安帝延光元年)夏四月大風東來折木飛瓦至夕而止都人訛言、倭兵大來爭遁山谷王命伊飡翌宗等諭止之(按するに此事日本紀皇后興師西征云云大風順吹不勞艣楫便到新羅隨船潮浪遠逮國中新羅王大恐曰新羅建以來未甞聞海水浸國若天運盡國爲海乎云云とあると能く合へり、此の役ハ干戈に血らずして征服せし故に史記にも戰の事を載せず。)十二年春三月與倭國講和阿達羅尼師今五年(後漢桓帝延熹元年)春三月倭人來聘二十年夏五月倭女王卑彌呼遣使來聘とあるは、日本紀は年代聊差異あれとも古事記の年代に符合すれば征韓の役の事たること明かなり、是れ等は我が邦人の尤誇るべき美事なるを浮薄の想像を以て誣る者さへあるに至りしは不辭しき限りなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○三の婦人雜誌の評畧　學海の指針第十六號、評

女學雜誌は鳩の如く神聖ならんことを期し、いらつめは蝶の如く美麗ならんことを期し、貴女之友は蜂の如く甲斐〴〵しからんことを期せるものにて、女學雜誌は質に白百合を氣取り、いらつめは櫻を氣取り、貴女之友は胡桃を氣取る如し。

○不知庵大人の御批評を拜見して
御返答までに作つた
懺悔文　美妙齋主人

新出し新參の木の葉武者、革具足でも着るだけが關の山の雜兵を緋おどしもどきの御取扱ひ、何と御禮の一節をまゐらせて宜いやら、つまり五月闇の夜討といふ格、見當は更につかぬほどです。それにしても有難い、御深切な御批判、よくも袖風に吹散るばかりのノヽ節を拾上げて銘を御題なさいました。自分ながら能もよわく、羽もゆるいとは知る節の矢付を徒にたゝへて桂とは何事です。三年竹とは過ぎて居ます。身にあまつた御評を拜見しては、本當です、まづ顏が緋おどしを着て、胸が早くも大鼓をうちたて、そして耳が逆上つて陣鉦を鳴らし出すばかり。たゞしつて來る双袖の露、それを君が情の紀念といふのはまだしく、たゞ感涙といふのみです。

御忠告のおもふき、「一時の喝采を貪つてその好尚に媚びるな」といふ段は毛頭感謝の外ありません。が、夏木立にみじかい物が多くあるとの御批評、その長い、丹誠した物の少いのにはやゝ仔細が有るのです。懺悔がてら、一寸言つて見ましやうか。決して辨護するのでは有りません。

いかにも夏木だちの「玉屋の店」、または「仇を思」などは趣向も無いもの、いはゆる說話といふだけです、勿論小說では有りません。が、小生は夏木だちへ必ず小說に限つて載せやうと決心して居たのでも有りません。まづ文章が讀者になりもせぬ内に早く大きな物に取つて掛つて笑を買ふのが隨分世に多くあります。二三年小說が流行するにつれてこのやうな惡弊は中々世にあらはれた、それを岡目から眺めては流石に前車の覆轍を鑑みる心は小生も起しました。それが即ち彼是の趣向の淺々しい物、むしろ文章專門の作を作つた原因で、今日まで小生がしつかりとした所謂「小說」を作らず、たゞ雜誌の小ぜり合で落ちた首でも拾つて居る譯はまつたくこの爲です。それ故、夏木だちの中にある類、それらも無論箋ならしです。どうしてそれらを小說と言へましやう。中々純粹な小說、實に言ふのも恐ろしい譯、まだ思ひもつかない事です。箋ならしの必要は只にそれ計りでも有りません。まだ誰も經驗したことの無い漢語で文章の地を書出したからには西洋文の長處も入れたし、漢文の長處も挾みたし、和文の長處も取込みたし、かれこれ基礎の一定せぬものに礎石を据へやうと思つて失策し、或は語格をたしかに爲やうと思つて蹶き、或は優美を加へやうと思つて躓き、そのために箋ならしを爲たのは幾何だか知れぬほどで、その箋ならしの中の主のものを集めたものが即ち夏木だちと爲つたのです。それに小說が少いといつて難じて下さるのは實に有難いことです、が、實の處は右のとほりです。ただ仰にあまねて是からは些と實のあるものを作るやうに盡力して長く御歷覧を戴きましやう。

次に小生の文章を一夜づくりだらうと御鑑定なされた御見識には實に一句もありません。卑怯らしい申分ですが、兎角小生の癖として草稿を一度立てたばかりの物を直に鉛槧に掛けることに爲つて居て、自分も時に校正する時、從前の文章を讀返して見て隨分悔る事も度々ありますが、さすがにもはや左樣なつては多く改めて更に活版屋に迷惑をかけるにも忍びず、つひ其の儘で世の中に出しました。無論これは惡いに違有りません。御忠告が無くともこれからは些つとしやうと思つて居た矢先へまた御言葉をいたゞいては殆ど言句も無くなりました。如何にも是から一夜づくりは謹しみましやう。(未完)

叢話

○日本の淑女を西洋人に知せたし

去二日横濱山手フエリス女學校に於て文學會紀念會あり、席上一種の新狂言として、月界の談話と云へる寸劇ありたり、趣向は紫式部、巴御前、小野のお通、及び楠正行の母、不思議にも月世界に落合ひて下天の開化を評する處にして、甚はだ面白かりき。吾人は宣教師の管理する女學校に於て、西洋人の來客多かりし目前に於て、如此き廣告のあることを尤も悦賀する所のもの也。抑も西洋人は兎角日本の紳士淑女を知らず、元來此地には高尙の道德ありしことを夢にも悟らず、多くはア

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

フリカ、ハワイ等の蠻民が稍や開化したるに同じきものとせり、友人某米國に於て隆んに英語演説を爲したるとき、或者は日本人が英語を辨ずるに驚ろきたり、或者は日本人が道德を論ずるに驚ろきたり、而して彼が當時如此なるを得るは一に基督教の感化に由るとし、基督教の人を化する如此しとして誇りたりと云へり、故に一人窃かに彼に問ふて「君は基督教を信じたるの前に善惡の辨別を爲し得たりや」と云ひしと聞く、外國人が日本を見る往々如此き者ある也。現に日本に來り殊に東京横濱に居住する西洋人等が、固より如此き誤解を懷かざるは論なしと云へども、尚ほ日本人が潔白正廉にして金錢の爲に義理人情を輕ろんずるが如き行爲を尤も嫌ひ惡むの德あるを知らず、往々失敬の言語を發して吾人を怒らするとあり、更らに況んや、日本前代の人は其道德今日よりも更らに優れりと云へる如きは彼等外國人の決して夢想せざる所也。故に當世倫敦の文學社會をも驚かしたる紫式部の書は西暦九百八十年の頃即ち第十世紀の終に出でたり、尚又伊勢物語が若しも伊勢の作ならば、之は西暦八百九十年の頃に出來たり。右大臣道綱の母の蜻蛉日記は同八百七十年の頃に出來たり。大貳三位の狹衣は同一千〇十七年の前に出來たり。眉尖刀を打揮つて夫に隨ひ千軍萬馬の間に往來したる巴は、西暦一千百八十四年の比の女丈夫なり。正成を助け正行を敎へたる賢夫人は一千五百五十七年の比の賢妻良母なり。日本の淨瑠璃を起し末世に名文の名を轟かしたる小野のお通は一千五百五十七年の頃の女秀才なり、と知らしむる等は特に愉快なり。吾人は西洋人を喜ばずして西洋人が奉ずる所ろの宗敎文學を愛するもの也、西洋現今の文明を一々に喜ばずして其文明の基礎と爲れるものを愛する者也、故に吾人は或意味に於ては平生尤も熱心なる西洋主義の論者にして、又或る意味に於ては尤も熱心なる國粹保存論者あり、吾人を知れる讀者諸君は、必らずや吾人と共に同意見を保つとに猶豫せられざるべし。

○岸頭に立つて

もみぢ

一日余れ岸頭に立てり、大濤曳動し、躍立して突進し來る、余れ喫驚して退きたり。暫らくして海面復たび平らかなり、余れ復た進んで岸頭に立てり、白帆遠きにあり、水鳥幽かに飛ぶ、乍ち見る大濤再たび曳動し、更らに躍立して突進し來る、余れ更らに喫驚して退き、之を顧みれば、濤岳岸頭の

巖ほに碎かれて水四方に散亂す、僅かに岸に登るものは極めて渺く、水膜巖ほを覆ふて千萬の白線を引きたり。思へらく余は驚ろくに足らずと、則ち三たび進んで更らに岸頭に立てり、此時泡沫水底より湧騰し、水環蛇の如くに環ぐる、漸やくにして、小丘、丘岳、大山追迫して現出し、激浪奔騰又た轟然として墜落し來る、然れども余は端然として屹立すれば、浪は巖端に破れて去り、少焉にして海面鏡の如くなりき。

○哭して而して笑ふべし　　みどり

或人曰く、女ほどに哭くものなく、又女ほどに笑ふものなし、希はくは宜しく哭くべきに泣き、笑ふべきに笑へと。余は曰く、更らに哭而笑ふとを知らざる可らずと。嘗てルーテル家居の圖を見るに、彼れ剛毅武骨の手を以て琴を彈ぜり、數子其膝に、其肩に、其傍らにあり、而して妻は耳を欹だて、密かに莞つて燈下に舊衣をつゞれり、嗚呼ルーテルは此の餘地ありて初めてかの大功業を成就したるもの也。古語に云ふ英雄閑日月ありと、余はことに女性の胸中に閑日月の存せんとを希がふ。むかし平家の一門京城を棄てゝ八島に逃るゝとき薩摩の守忠度は狐川より引返し、俊成の家に行て一首を遺したり、一の谷落城の曉、無官の太夫敦盛は城門に笛を弄したり、何んぞ其の優雅高美綽々として餘裕の存するぞや。余は女の涙を以て天國の露となしぬ、又た其の笑を以て褒似の美粹とは思へり、然れども尚且つ哭中よく哭をのこす、所云る思ひ切まらざるの餘裕なくんば滿足すると能はず。

○女子看護法の心得　　華族女學校教授　津田梅子

親愛する巖本君過る春の事なりき婦人教育會に於て女子看護法の心得の事を演述いたし候ひしが此頃に至り其の拙き草稿も若しや君が雜誌に御入用の事やあらんかと思起し送り候只今差上候宜しきよう御取計の上女學雜誌に御載せ下さらば有がたく候私は君が其の雜誌中に於て日本婦女子の爲に現はし玉ふ御盡力を謝する念を何如にかして示し參らせたしと毎度考ふると有之夫故何事をか書記して差上げたく尚ほ此文段が君に多少の御役に立ち候へば幸甚と存じ候夫故此の草稿も御暇の節一覧ありたく存候早々（右譯英文みどり譯以下本文は悉皆原のまゝ）

今日此會に於て皆樣方の前にて私の聊か考へ居りました事を申上る事を得まして實に幸のことに存じます東京ヨ簡樣なる會の起りましたのハ甚喜ばしいことでどうか此會が盛大に趣き其勢力を四方に廣げるやうになりまする事ハ私の切に望む所でございます。

女子教育に就てハ一般の人が熱心することで此會ハ即ち其結果でございます女子教育の事に就てハ既に澤山言れてありますればハ其最も面白い一問題なる婦人の位置及び其位置を高尚にすることに付てハ唯今お話し申しませんが今日皆樣の注意を願ひたい事ハ私の心に永く思ふて居りました事でございます

尤も左程珍しきことでもござりません又格別面白い事でもございませんがどうか皆様の私に御同意くださることを望みます夫れは衛生法及び病人看護を心得ることは女にとりて必要なりと云ふことでございます此二つの中唯今私は看護法に就て申上たく思ひます。

女が看護をすべき事　皆様御承知の通り學術進歩の今日は醫學上にも非常の進歩が御座いまして只今にては僅かなる人數あれども名醫と云るゝ程の人は隨分外國の醫者と比べることの出來る程の人もござります又日本にても其中には醫者となる婦人も出來るでございましやうが先あると致した所であまりないことでございます兎角婦人の醫者の出來る出來ないに係らず看護法は婦人の必ず心得居らねばならぬことでございます偖銘々は何時内の者か亦は朋友が病氣に罹ることがあるかも知れません其時私共は看護を致さなければなりませんされば病人の大切なる命と云ふものは吾等看護者の注意と手練とに由るでございませう。

病人を病院へ遣るは女の欠典たる事　日本では看護の事は未だ能く開らけて居りません故にヒドイ間違をする様な事が御座ります夫故大病人なれば據なく病院へ入れるとに為て居ります外國では病院へはいる様な人は通例相當の看護を受け可き家も無き貧窮人のすることでございます中等の人は入院することは非常に嫌ひます其譯は病院は吾家といふ愉快の心持なく靜なる部屋にて家内の者の傍にあると違ひ平生我樣子をも知らぬ醫者にかゝり馴れぬ人の看護を受くることとて萬事我家に居ると違ひます然るに日本にては病人危篤の塲合に至れば是非とも病院へ送らねばならぬのは何故でござりませうか其れは家に居る女たる者が看護の法を心得ず又病人に與ふ可らざる食物を與へたり病のことを少しも知らず醫者が毎日見舞に來るまでにはどういふ容躰であつたか如何なる變化があつたかを細かに醫者に知らせる者も無い程にて或は其容躰に由り病人の生死に關する程の變化が有ても唯看護人の不注意と不馴とに由り夫を等閑りにするとがござゐますなんと是れは家内にとり女たる者にとりて一つの大なる欠典として惜むべきことではございませんか病人を看護するは女たる者の重なる職分の内であるに病人を吾家にて取扱はず相當の看護を外より仰ぐは實に殘念なことではござりませんか吾等女たる者は人の命に係はる此學問を學び我家族の衛生を身に引受け此大切なる職分を盡すべき筈でございます（未完）。

〇一唱百歎

世の中を何にたとへん水鳥のはしふる露に宿る月かげ（理齋庵筆）
朽はてぬ猶おり〳〵は訪ふ人のこゝろにかゝる谷の柴はし（深草元政）
淺ましや思へば日ゝの別れ哉昨日の今日にまたもあはねば（澤庵和尚）

〇婦人衞生一斑（姙娠養生の事）（其四）

櫻井郁次郎述　佃與次郎筆記

イワタ帶の事　衣服に就て一言申さなければならぬことがある。其は、彼のはら帶のことでありますが、イワタ帶と云ふて、昔から隨分說もあつて、神功皇后の時分から始まつたと云ふ說がある。然しながら別に詳く書たものもなく、只口碑や一寸した書類の言傳へであります。一說には、イワタ帶とは、結肌の帶であるとも申します。然し是れは我國一般の方式でありますから、今更之を捨る譯には往きません、却て私は宜しいと思ひますから、聊か意見をも演べますが、元來イワタ帶は、姙娠五ケ月頃、即ち胎兒の動きが、己れ自ら感じられますと、其人自ら姙娠たるを悟りて、産婆に帶をして貰う。丁度二十週の頃に、胎兒は運動を始めますから、其際帶をするを、祝と言ひます。然らば、其イワタ帶とは、懷姙の爲めになるかと云ふに、ソレ程に益はありませんけれども、私は間接の益はあらうと思ふ。何ぜなれば、帶をしますと、其人自ら誡める所の心が起る、粗暴の振舞などは致さなくなります、自分が懷姙して居ると云ふことを、帶に因て誡めて置き升から、何の樣な事に出會ッても、斯ンな振舞をしてはなるまい、危き擧動をしてはなるまいと、自誡するの目標になるから、帶の害のない已上は、用ゐる方がよからうと思ふ。造次轉沛も、姙娠たるを忘れぬ樣にするは、必要であるが、併し世間で此の帶をするの目的は、大に間違て居ると考る。何故帶をするかと問ひますと、小供が育ち過ぎると、産をするに骨が折れるから、成るたけ大きくしない樣にと云ふ、果して小供の成長を左程に防ぐことが出きるなれば、姙婦にも必ず害があります。私は帶はすべきものだが、緊しくしないよう、極めて緩るく、只帶が姙娠であると云ふ徵しだけに止めて置きたいと思ひます。當時は、フランチル抔で、ソット卷きますが、ソレで宜しい。一丈も一丈五尺もある布で、キリ〳〵卷きつけるはよくは有りません。

日本女服は姙婦の腰下を冷やす事　其外に、一ツ衣服のことに就て考へたことを申すのは、我國人の衣服の製と云ふものは、腰の回りを定規にして、下にダラリッと下げる樣な工合に出きて居て、丸で空氣が下の方から、小腹部あたりには直接に達する樣になつて居ります。從來は、總て座して居るの風俗

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

であるから、左程に害もなく、腰卷を締めて同じ樣なものを幾枚も重ねて、其上の方は着物です。故に妊娠したる婦人の腹部の最も隆き所より、直立して、膝と着物の間は餘程濶きものになります。ソレ故に、椅子に腰をかけるとか、或は起立して事業を爲す樣な世の中になれば、非常の害をしやうと思ふ。或ハシモカゼと云ふ樣なヿで、小腹に寒冷を覺へます、下腹が釣るとか、白帶下とか云ふヿがある。座して居るから宜しいが、若し起て居るなれば、日本の衣服ハ決して適當のものでハあるまいと信じます、之を防ぐにハ、何うしたら宜しいかと云ふに、最も單簡なる股引の樣なものを穿つが尤もよろしい、半股引の樣なものを隨意に拵へて、寒冷を防いだならば、或ハ之を免るゝヿが出き樣と考へまする。且つ衣服ハ、洋服が宜しいか、和服が宜しいかなどゝ云ふヿハ、今日喋々するの場合でハありませんから述べません。（未完）

○女學古文

妻のつとめ　　貝原益軒、家道訓

家をよく保つと保たざるとは夫の德不德のみにあらず又妻の行ひの善惡によれり古人家貧しくして良妻を思ふといひけんもうべなり夫は外をゝさめ妻は内をゝさむるが職分なり夫よく節儉なれども妻もし放逸に怠りて勉めず驕りて儉約あらざれば家を保ちがたし殊に貧賤なる家はひとへに妻の力によつて盛え衰ふ夫は常に内に居ずして妻のしわざを知らず只妻にまかせ置く然るに妻不德なれば財をうしなひて必ず家をやぶる故に上士以下庶人の家をほろぼすは多くは妻のとがなり戒むべし妻の德は謹みておごらず夫としうとに受け從ひてわがまゝならずもつぱら家事に心を用ゐて身をへりくだり女工を能くつとめて怠らざるこれ婦人の德なりかくの如くにしてよく家を保つべし夫となれるものは愛におぼれず必ず婦に敎へて家を治めしむべし。

小說

○哲女の卷

（第七回）雲隱（上）　　月の舍しのぶ

窓より見ゆる園庭池水は、遙かにつるしたる一幅の畫の如く、夕照斜めに映ずる時、高かく叫ぶ家鷄の聲は自づから幽邃の趣を添えたり、宏大なる結構に數寄を加えて、文質金光の甘まく調合したる此の應接室こそ、當時内外に英名ある藤井伯爵を主人としたる墨堤の別莊なれ、時は八月の初めと見ゆる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

が、全日取包みたる猛熱は晩風の一聲と共に圍みを散じ、涼氣交々室内に訪問れして今日の苦戰を慰さむるの狀あり、主人は胸襟を開ひて南窓の下に倚り、團扇を握つて快談するが如くに見え、客は之に對して謹んで應答すれども、風采深沈優洋として毫末も屈する所ろあるを見ず、主人は切りに笑ひ說き且つ容るゝの樣ありて、客は熱心に論じ辨じ且つ謝絶するの躰ありける。

主人公は、話頭を轉じて、

時に春日君、先達ての四條は何如したかノ。

之は過る日春日剛が此の伯爵を訪らひたる砌り、伯が尤も厚く關係せらるゝ某女學校の教頭として四條哲を採用せられたらんよはと言上したるともあれば、則はち今に至るも尙ほ之を念頭にかけ心配せらるゝとならんと打喜ばれて、只今迄で何やらん熱心に辨論したる口氣も頓かに改たまりて、

ハイ、其后實に非常な事に會はれましたが、定めし新聞紙で御承知で御座いませう、氣の毒なることです、無極と云ふ叔父は脫走しまする、一人の老女は急に行方知れずなりました、哲子は隨分重い病症で極めて難澁と見受ましたから、差當り私方へ引取り介抱して居りまする。

ソウカエ、夫は氣の毒だ、此間だお賴みの事も大抵は出來るようだ、何れ其内に何んとか返事しようが、其四條と云ふナア余程學力があるそうだ、定めし君が好逑たるに適するだらう。

なか／＼其樣なる關係では御座いませんが、兎に角女流中では尤も見るべきの人物と思ひますから、之を用ひざるのは實に殘念と存じます。

ソウカ、よろしひ、然し君はマア其の如き女秀才と力を合せて、而して先刻の事を遣たらばどうだ、面白ひジヤないか。

巧妙なる伯爵は、復たび敵の馬頭を引廻したり、而も其馬頭を撫でつゝ、彼を喜ばせつゝ、之を引廻したるなり、然れども泰山の石は轉ばすべし、此の年少哲學士の心は決して動かすことを得ざるものなり、彼は昂々乎として再たび辨ずるよう、

迚もお說に從がへぬと申しまする道理は、第一に私しには決して其の樣なる事の出來ぬと云ふと、第二によし幸ひにして辛うじて出來たりとも、私が國家に盡す尤も適當なる道は其他にあらうと云ふ事、て其外に更らに一つの

道理あるゆへで御座りまする。
主人公いよ〳〵笑ひを含みつゝ、但し此の笑ひや極めて愛嬌を示さんとする製造的呈上的の笑ひにてありつゝ、
ナニ君に出來んと云ふようなとは無いから、先づ第一の理由は止めとして、夫れで第二の理由に來るのだが吾輩の考へでは之ャア隨分面白いとで、其上國家に影響を及ぼす非常であるから、君が若し遣つて呉れるならば國家の公益で、即はち君が大事業であらう、クロムエルの新政府も央ばはミルトンの筆に成ると云ふではないか。
實にお説の如くで、ミルトンの自由の精神と其の博學宏才の筆とを以て彼の時代に立つ時は、ミルトンの所置に出づるは隨分に良善の策でありませうが、私などには固よりミルトンの才筆なきのみならず、よし万一にありとしても、今の時勢は大ひに當時の景況に違つて居ると存じまする。
デモ無いぜ、今ま白山が施政を見玉へ、實に驚ろくべきとツヤアないか、速かよ之を改めて万民塗炭の苦を救はなければ、吾輩の責めは免かれんと思うんだ、夫には是非とも君の學才と君の文章とを假らなければ甘まく行かんと思ふから、相談するのだが、……
春日剛はいよ〳〵凛然として、
伯爵は實に私供が知已と成つて下さるとで、固より全力を盡して御賛成申すべき筈でありまするが、密かに今まの政治社界を見ますれば、只だ是は源平權を爭ふ迄の顯象で、何れが路に立たうとも其根本が据はらなければ矢張り同じき病元となるとと存じます、故に私供が當今に尤も大切なる務めは、斯の如き浮たる事業に關せずして、百年の大計を運らすにあるかと存じまするので、夫には尤とも偏せざるの地位に在りて、尤も深き考究を、尤も恐なきの發論に現はし、而して社會改良の根底、文明の最下層とでも云ふべき所ろに全力を盡すべきかと考へまする。
成程、實に立派な覺悟だ、然し君の才學を百年の后に讓つて、此の當年切要の場合に用ひさせないのは實に殘念であるよ、夫では君、その秘書官と云ふような談しは止めとして、他日吾輩の計畫成るの日、一つ文部で骨を折つて呉れ玉ふとにしては何如カエ。
重ね〳〵有がたう御座りまするが、決局私しは官途を好み

ませんので、又官途は富貴利達の存する代りには前申す如き事業を執行するに尤も不便なる地位と存じまするから、之は甚はだ一身上の事を申上て恐れ入りまするが、實は大學教授の任も此度すでに辭表を呈しましたる次第でして‥‥

主人はぢろりと見て、

ウー、ソウかエ、夫迄の決心ならば致方ない、然し其は極めて宜しひ、吾輩も尤も贊成する、どうぞ其精神を以ていつ迄も民間で働らいて呉れ玉へ、到底人民に自治の精神が盛んにならんければ、何れほど政府で骨を折つても仕方がないのだ、夫は實によろしひ、實に面白い。

時に今夜は白山が夜會を遣ると云ふのだが、何んな事を遣るかッ、ウン面白いだらう、夫では春日君亦た‥‥

甚はだ失禮いたしまして、過言の罪は幾重にも御容赦を願ひます。

淡泊に一禮し、別辭を告げぬ、主人公は見送りて冷笑したり、少年は恰かも月桂冠を得たるが如く、意氣堂々として罷り出でたり。

正誤　前號衍女の巻二〇頁上十三行青山は春日の誤也。

佳傳

〇萬國婦人禁酒會々頭ウイルラルド女史（其二）

扨て歐洲漫遊より歸りてのち、イリノイ州に在るエバンストンの女學校を管理し、前后三年間忠實に其職を盡して凡そ二千人以上の女生徒を教へられたり、女史が此校に於ての感化は實に驚ろくべきの勢力にて、其自尊自治の精神は乍ち諸生を動かし、倘又たわれ如何にして此世に於て盡力すべきかの問題は何生の心中をも刺し通して、女史此校に來られてより凡そ半年を經ざる内に、校中大抵確固たる目的を定めざるの女生なきに至りたりと云ふ。

此頃の事なり、女史シカゴの或る集會に於て一場の演説を爲せり、其時之を傍聽したる一人の紳士は會終りて后ち女史に申すよう、今日御演説を承はりて實に敬服の至にたへず、若し之より后ち三週間に御用意ありて更らに一場の公けの演說を爲さるべしとあらば、私は當シカゴ府に於て集め得る丈けの會衆を集め御覽に入るべしと云ひ、金五十弗を出して先づ其準備の爲にと渡したり、女史は歸宅して之を其母に謀りたるに「我愛子よ、先づ全力を盡して試み見よ」と云はれしかば、則ちいよ／＼彼が請ひを承て演說の草稿を作り、題して新動

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

爵士と云へるを逃ぶることを爲しぬ、大意は當今の勳爵士は最早昔しの武士吟行人の徒にあらず、即はち女性に天賦の權理を與へて能く之を保護するの徒なりと云ふにありて、且つ我兄弟は今ますでに神學科に入りたり、我姉妹に對して世上が若し否と云はざりせば矢張り彼女も亦た同樣の教育を受けたりしならんとの慷慨をも加へ、用意寧ぼ成就したりとて三週間の後ち某所にいよ／＼公けの演説を催うすことなりぬ。

之れ女史に取りては最初の公開演説なれば、其出來果何如あらんと掛念したる人々も多かりしに、驚ろくべくも立派に演べ去られて非常の感覺を聽衆に與へしかば、會後二週日の内に凡そ一百ヶ處より演説を請ふの招待を受け、之よりして尤も名譽ある演説者として世に出でらるゝこと成りぬ。

斯てエバンストン女學校三年の管理も畢りし後ち、オハヨウ州よ女子十字軍の集會ありしが、女史は此時よりして心を決し、全心全身を犧牲よして禁酒事業の爲めに盡力すべしとは覺悟されたり、左れば此の時より今日に至るまで女史が熱心ある盡力は一日だも他の方向に向はず、たゞ／＼專一に最初の希願を貫ぬかんとは勉められける、但し此間に於て女史が盡力の方向を暫時にても他に向けたるものありと云はゞ、即いち蓋し左の二つにてあるべし、其他に決してこれなし、云く其兄弟オリバー氏の頓死により、之よ代つて暫時シカゴ毎夕新聞の社説を草したる事、云くシカゴに於てムーデー氏の彼の有名なるレバイバルの演説ありしとき之に助力したる事これ也

吾人は此他にウイルラルド女史一個に關するの出來事あるを聞かず、而して米國婦人禁酒會は年々に隆盛となり、遂に天下禁酒の中心と爲りて旣に萬國婦人禁酒會を起すに至り、今まや歐洲各國は言ふ迄もなく、日本支那濠洲も亦た言ふ迄もなく、彼の印度、彼のハワイ、の極地に至るまでも尙は婦人禁酒會を開くに至り、萬國を通じて正午を期して祈禱する正清純潔の祈禱は、日夜二十四時間間斷なく全世界に聞こゆるなり、之れ即いち女史一身の大ひなる傳記と云ふべし。

新報

（此欄内自由に轉載を許す）

○宮廷錄事

去卅一日　皇后宮陛下東京慈惠院に成らせ玉ひ各病室を御巡覽遊ばし玉ふ此間だ院長は始終御先導を爲し奉つり一々病況を述べし陛下は一人々々に御慰問あらせられて後ち患者一同に果物を下賜せらる又同陛下には本月中旬を以て一ッ橋外なる高等女學校へ行啓あらせられ生徒の授業上を御一覽あらせ給ふやに承る

去一日　皇太后宮陛下に勲一等寶冠章を贈進せらる

○叙勲賓冠章
十一月一日、いよ〱左の五子に叙勲賜章ありたり、
一品大勲位熾仁親王妃　董　子
二品大勲位彰仁親王妃　頼　子
二品大勲位貞愛親王妃　利子女王
二品大勲位能久親王妃　富　子
三品大勲位威仁親王妃　慰　子
叙勲一等賜賓冠章
吾人は大いに之を慶賀するもの也。

○夏期休業は無益か
近來教育家の社會に、夏期休業を無益なりとするの論盛んに行われんとす、而して特に小學校の事に付て此論を主張するものあり、吾人は固より今の夏期休業方に賛成する能はざるものなれども、亦た之を全廢するに就ては特更らに同意する能はざるもの也。中にも女學校に關して之を言はゞ今の處ろ夏期休業は極めて大切なることを信ず、之によりて弱き女性の躰も休まる也、之によりて女生徒も家政の事を實地に稽古する也、之によりて贈飾的の女性も少さか實用反對の習慣を造ることも也、女學校の夏期休業決して廢す可らず。

○天長節、鹿鳴館の舞踏
當夜來客一千余名の中ち、踊るもの西洋人多かりし日本人中能の間にありしものも少と遠慮の氣味ありし事、鹿鳴館中には一時全く白襟紋附の婦人を見ざりしに此夜は二十余名ほども見受たる事、民間の分子多く入組み官民一堂に集つて天下太平の氣象ありし事、以上何れも賀すべき事也。

因に曰く、神戸にて發行する政友第二號此頃到着したるか、其中に舞踏會と自治政研究と云へる一項あり、云く、
條約改正中止以來跡を絕ち居たる舞踏會は又た此程ど貴婦人の再興する所となり頃日鹿鳴館に於て其第一會を開かれたるが豫ねて該館には自治政の研究を始めたれば一日は貴婦人の舞踏會となり一日は自治政の研究會となり轉々繁昌の色を呈せりとか。

評に云く、未だ呈せざる也、必らず其中に止み申すべし、蓋し東京府知事もしくは外務大臣等が年に一回位ひの舞踏會を開くは種々の事情ありて無理ならぬ事也、吾人此等の會其自身に對しては何とも言へずして只だ其の及ぼす所ろの影響を論ずるのみ、鹿鳴館と云へる語ばの聞ゆれば聞ゆるほど、府下の二三の女學校の舞踏博士は乍まち勢力を增すが如し、鹿鳴館舞踏が女學に關するの損害決して少なからざる也。

○女役者
櫻痴居士がもしや草紙に、置野通路と云へる女役者現へれたり、而して之は繼地源一郎氏が歌舞伎座に於て現へるべき女役者の先驅なりと云ふ、果して然らば之より結構なることなし。

○谷間の姫百合　末松謙澄君の譯よ成れる同書の第一卷は皇后陛下へ上呈せられたる處ろ殊の外思召に適ひ其の第二卷は何如あるとの御尋ね迄ありし趣き藤波侍從より末松君へ傳へられたる由にて出版を急がるゝ由最早近々に世に出づべし。

○麻布フレンド女學校　津田仙氏の邸地内に去年來設けられたる布連土女學校は兼てコーサンド氏夫婦の管理せらるゝ處ろなるが此頃に至りウライト氏夫婦亦た新に渡來し教授を助けらる同校は余程の計畫あり既に芝に廣大の校地を買入れられたるが當今獨逸に在らるゝ太田絹造君(毎々女學ざつしに寄書ありたる人なり)の歸朝を待つて盛んに擴張すべき目論見のよし也。

○埼玉縣賣淫公許の議案　同縣にては深谷、本庄の兩驛のみに貸座敷營を許し其他へは之を置くことを許さゞりしが近來同縣下に密賣淫の盛なるに付き同縣知事には之を公許せんとの意見にて公許の可否を縣會議員に問はんとの議案を製し先づ内々常置委員等に質すも異議なき由なるが吾人は社會の爲に同縣會議員諸氏が鳳鳴を朝陽に發せられんことを希望する者なり。

○婦人の受付　岡山縣立病院にては今度受付係員は總て婦人を以てこれに充つることゝしたるに來院患者に對しての取扱向懇切にて頗る其職務に適せりと云ふ。

外報

(此欄内自由に轉載を許す)

○英國女王陛下と女學校　英國女王ビクトリア陛下は去月クインマルガレツト女學校と云ふスコツトランドに於ける只一の女子大學へ臨みて演說されたるは、凡そ女子の地位を高め女子の感化界を廣ろむる所ろの運動は朕が熱心に賛成する所ろ也此校の如き亦永久に榮え續くべきことを信ず。

○安藤夫人文子　ホノルヽ領事安藤氏の夫人文子は禁酒事業に熱心にして安藤氏も亦た内外につけ夫人を賛けらるゝよし之が爲めハワイ島内三千の日本人に對しては莫大の感化あるよし也(ウーマンス、ヂヨウナル九月十五日)。

○世界第一の老女　は千八百二十七年來今も尙ほ米國ウイスコンシンに住居するシヂケルポイントのブリツヂエツト、ヅクレー夫人なるべしと申す當年にて百十七才なるが確かに米國中にては無論最老の老女なり。

○新女子大學　米國北バルチモーアに十二萬弗にて建築せられたる新女子大學は來年九月より一百人の生徒を入るゝ計畫のよしなり。

寄書

小供談

右の二欄本號餘白乏しく不得止之を省く

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

●英數二科ノ教師ハ立教大學ヨリ四名出席ス●和漢二科ハ舍主柏樹親ラ教フ●生徒ハ固ヨリ男女ヲ撰バズ但シ婦女子ノ和漢文科ノミハ午後一時ヨリ六時ヲ限ル●餘ハ同六時ヨリ九時半迄●婦女子ヨ來學アレ多キヲ望ム

●京橋區山下町廿弐番地

私立 **高津學舍**

小兒科外來診察廣告

小兒科外來患者（十二年未滿ノ者）ハ自今毎月水金ノ三曜日午前十一時迄ニ來院ノ者ヲ診察治療ス尤モ其病症ニヨリノハ施藥ヲナス

廿一年十一月

醫科大學 **第一醫院**

謹而貴嬢紳士に告ぐ

弊店儀開業日尚は淺きにも關はらず四方の貴嬢紳士の御愛顧を蒙り日増に繁榮仕り難有仕合せに存候就ては今後一層廉價と思切を旨とし益々勉勵仕候間御引立の程偏に奉希候

パリス製美風貴嬢、紳士の帽子各種、絹、毛糸製肩掛、ジョルセース、アムフロイドリー、諸色レース等の上等品澤山見切價を以て買求め候に付此際非常の廉價を以て賣捌き候間何卒不限多少御用向仰付被下度候以上

再白パリス製御婦人用山羊手袋キッド澤山着荷致候に付きこれ亦御注文被下度奉願上候也

横濱堺町二十五番地

近江屋榮助

○高等小學校教科用 文部省檢定濟○藤尾錄郎著○田口卯吉序

實地應用 **家計簿記法**

明治帳簿式 全一冊 正價金貳十錢 郵稅金十四錢

同例題

全一册 正價金十錢 郵稅金十錢

○日記帳○元帳 各金八錢ヅヽ 郵稅金六錢ヅヽ 但三冊一マトメニナス時ハ郵稅金十八錢

○賣買仕拂帳 金十四錢 郵稅金十錢

此書や唯朝夕數字をだに記入せば一家の出納細大漏さず之を明にするを得せしむる者にして公私の學校生徒は固より官吏會社員農工商に論なく凡そ一家を經營する者は必ず購讀す可の要書なり殊に當家に志ある夫人令嬢に取りては坐右不可缺の寶鑑たれば女子を陶冶せんとする女學校の教科書には最も適せる者なり

○發兌 東京々橋區彌左衛門町 **經濟雜誌社**○賣捌 東京丸善、小林、博聞社、集成社、中央堂●大阪梅原、丸屋●京都大黒屋●横濱丸善其他書肆

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

小弟儀今春來腦患に罹り居候處追々甚敷到底繁劇地にて全治致し難きに付き一時神學校を辭し地方に退養候間此の段辱知諸姉に告ぐ

明治廿一年十一月

日本聖公會神學生 **中野繁利**

おもしろ誌

第七號十一月發兌●每月二回●代價一册金四錢十册金三十六錢外に郵稅を申受く都て前金の事爲換は四谷局宛●●●何が面白いと云ても本誌を讀むに越したる者なし其が嘘言だと思ふなら壹錢切手五枚を投じ見本一部を購讀して娯覽●頓智談滑稽狂詩狂歌都々一等至急御投寄を願升

東京牛込區市ケ谷々町二番地 知新社

速記學獨習生募集

五百名十一月三十日限リ申込ムベシ

夫レ言論ノ頻繁ナル今日ニ當リ速記學ノ必要ナル多辨ヲ費サズシテ明ナリ從テ速記學教授及ヒ自宅獨習生募集廣告文每日刊行ノ新聞紙上一日トシテ見ザルコナキニ至リシハ即チ速記學ノ必要ヲ感シ需用增加ノ然ラシムルニ非ザルカ夫レ然リ然レドモ多クハ教授繁簡ニシテ其宜シキヲ得ス剏起暮消定リナク從テ遠隔熱心ノ有志ヲシテ完全ノ結果ヲ得セシメザルハ豈筆記社會ノ一大欠點ニ非ズヤ本會茲ニ見ルアリ從來ノ規摸ヲ營固擴張シ今回獨習生五百名募集ス會員ニハ速記要書ヲ與ヘ懇篤速成ヲ主トシ三ケ月ニテ卒業セシム費用ハ要書料月謝共壹回前納シ他ニ費用ナシ質問ハ郵券二錢ヲ投ズベシ送金ハ爲替ニ限ル不便ノ地ハ郵券代用一割增期中ト雖モ滿員ニ至レバ謝絶ス四方有志ノ士ハ規則一覽ノ上入會セヨ浮雲校舍ト同一視スル勿レ

東京芝區愛宕下町一丁目三番地

日本速記協會

幹事 **高橋義一**

發兌

九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一册。五錢　郵稅。一錢　（但府內無郵稅）

十册。四十八錢郵稅。十錢　（同前）

半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲載するに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行　一回　（廿七字詰）　前金拾錢

同　三回以上　一割引

同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町[illegible]々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新段町眞明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄕區元富士町盛春堂○同本鄕區春木町二丁目解明堂○同本鄕四丁目文書堂○横濱住吉町角田屋眞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入濟生光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボ｜ド○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎新屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町燒平堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年十一月八日印刷
明治二十一年十一月十日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　**女學雜誌社**

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8, Hiyoshichô, Shinbashi, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

小弟儀今春來腦患に罹り居候處追々甚敷到底繁劇地にて全治致し難きに付き一時神學校を辭し地方に退養候間此の段辱知諸姉に告ぐ

明治廿一年十一月

日本聖公會神學生 **中野繁利**

おもしろ誌

第七號十一月發兌●每月二回●代價一册金四錢十册金三十六錢外に郵稅を申受く都て前金の事爲換は四谷局宛●●●何が面白いと云ても本誌を讀むに越したる者なし其が廣告だと思ふなら壹錢切手五枚を投じ見本一部を購讀して御覽●頓智談滑稽狂詩狂歌都々一等至急御投寄を願升

東京牛込區市ケ谷々町二番地 知新社

速記學獨習生募集

五百名十一月三十日限リ申込ムベシ夫レ言論ノ頻繁ナル今日ニ當リ速記學ノ必要ナル多辨ヲ費サズシテ明ナリ從テ速記學教授及ヒ自宅獨習生募集廣告文每日刊行ノ新聞紙上一日トシテ見ザルコナキニ至リシハ即チ速記學ノ必要チ感シ需用增加ノ然ラシムルニ非ザルカ夫レ然リ然レドモ多クハ教授繁簡ニシテ其宜シキヲ得ス朝起暮消定リナク從テ遠隔熱心ノ有志ヲシテ完全ノ結果ヲ得セシメザルハ豈筆記社會ノ一大欠點ニ非ズヤ本會茲ニ見ルアリ從來ノ規摸ヲ鞏固擴張シ今回獨習生五百名募集ス會員ニハ速記要書ヲ與ヘ懇篤速成ヲ主トシ三ケ月ニテ卒業セシム費用ハ要書料月謝共壹圓前納他ニ費用ナシ質問ハ郵券二錢ヲ投ズベシ送金ハ爲替ニ限ル不便ノ地ハ郵券代用一割增期中トモ滿員ニ至レバ謝絕ス四方有志ノ士規則一覽ノ上入會セヨ浮雲校舍ト同一視スル勿レ

東京芝區愛宕下町一丁目三番地

日本速記協會

幹事 高橋義一

發兌

九月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
十月。六日 十三日 二十日 廿七日
十一月。三日 十日 十七日 廿四日
十二月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日

定價

一册。五錢 郵稅。一錢 (但府內無郵稅)
十册。四十八錢郵稅。十錢 (同前)
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲載する塲に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行 一回 (廿七字詰) 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殷々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東流堂○同日本橋區新葭町貢明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文森堂○横濱住吉町角田屋貢○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入澤集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンポード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町本村交助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目星速社○長崎名屋町虎與號○江州彦根西內大工町新々堂○相州小田原緑町石森堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1,43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

明治二十一年十一月八日印刷
明治二十一年十一月十日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐